

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 10 月 1 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300173
法人名	有限会社 すりい
事業所名	グループホーム ふれあい館
所在地	鹿児島県曽於市大隅町月野3486-6 (電話) 099-482-5333
自己評価作成日	令和3年 10月 1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 「ゆったりと さりげなく 住み慣れた地域の中で あなたがあなたらしく」の基本理念のもと、職員は、「同じ空間で過ごす家族」の一員としての意識を持ち、入所者・御家族の思いをくみとり、支援を継続することに努めています。

* 職員は、各自、認知症ケアを行う「チームの一員」として、「信頼」「協力」「理解」を心掛けて、日々の支援に努めると同時に「自己研鑽」へも努めています。

* 昨年からの、続いている「コロナ禍」で積極的な外部との関りを行うことに支障がありますが、「今 できること」を模索しながら、「地域との繋がり」「絆」を継続することに努めています

ホームの理念は、あなたがあなたらしくあるようにとフレーズにあり、その人らしい人生を送ることができるようにという理想であり、職員は、開設当初からの理念を大切にしている。朝、夕のミーティングで理念に触れ職員の意識統一を図り、常に利用者に寄り添い利用者本位のケアを実践しているホームである。地域との関わりや交流活動が減少傾向ではあるが、職員がチームワークを発揮し、利用者自身が自分の時間で生活を送ることができるよう利用者一人ひとりの生活パターンに合わせ常に理念を意識し実践している。

管理者や職員は、コロナ禍で思うように面会ができない利用者や家族の心情を汲み取り、日々の生活状況やケアの状況などを動画やメールなどSNSを駆使して情報を伝達している。毎月の「ご利用者状況報告書」には、利用者の写真を添付して郵送しているが、写真はアルバムとして個別化され家族に提供している。

重度化や終末期に向けた取り組みについては、利用者には心細やかに声かけしながら安心していただくよう伝え、主治医を中心に家族、職員、関係機関と連携を図りながらホームで出来得る最大限のケアに務め、穏やかに、また、納得のいく最期が向かわれるよう取り組んでいる。管理者は、最期を担当した職員には特別な声かけをするよう図らっており、職員も研修会開催や反省会をおこない次に向けてステップアップし、家族に対してはグリーフケアも大切にしている。

1 F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は、各フロア内の数か所に掲示し、意識して実践できるようにしている。	理念は、共有スペースや廊下などに掲示され職員は理念に触れ常に意識されるよう取り組み施設見学の方などにも理念について説明している。1日のスケジュールは決めずに自由な時間を過ごしていただく生活を目指すといった開設者の強い思いが伺える。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、以前同様の関りは困難ながらも、野菜の差し入れ等繋がりは続いている。	コロナ禍で外出を自粛しているが、高齢化により年々外出も厳しくなりつつあった。事業所は、できるだけ地域のボランティアを受け入れ交流の場となるよう務めている。認知症ケアの実践をつぶさに知っていただくことも必要と地域に開かれたホームを目指している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	心配事相談・認知症カフェ等の参加や協力を行い、地域の方々に対して、理解を深めていただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、施設にての会議が困難となっており、現在、文書での意見を頂き、書面会議を行い、議事録を委員の方々へ郵送している。	会議案内を送付する際、予め議題を提案し、個々の議題に対しての意見を書面で頂戴して出された意見について職員で話し合い、会議メンバーにメールなどで伝えサービス向上やケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは日頃より、密に連携を取っており、支援についての相談を行い、助言を頂いており協力関係を築いている。	日常生活自立支援事業の利用があり社会福祉協議会との連携や認知症ホームの会が地域包括支援センターにあり相互に協力関係を築いている。市担当者とは、電話やメールなどで連絡を取り相談や指導・助言を頂戴している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2～3ヶ月毎に会議を開き、身体拘束についての意識確認を行っている。また、職員間でも注意できるように努めている。	立ち上がりに不安がある方がおられ人感センサーを設置しているが、代替策や廃止も含め定期的に話し合いケアの方向性について検討している。会議は、3ヶ月毎に開催され職員会議や申し送り時に職員に報告し情報共有をおこない、身体拘束などや虐待防止について認識を新たにすして常に意識したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、意識を持ち、日頃のケアに繋げるようにしている。また、職員間においても注意できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修機会が少なく、専門的な内容になるため、一部の職員の理解になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所相談の際、また内容に変更がある際は、その都度、口頭・文書で案内・説明を行い、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会制限を行っていますが、御家族より御電話等で思いや要望を聴いたり、支払い時に意見を伺っています。また、職員へ言葉を伝え、ケアに繋がるように努めています。	家族には、電話やメール、LINE、タブレットの動画を確認してもらい利用者の生活状況などを報告して希望や要望などを聞き取りサービスに活かしている。介護計画書は、利用者の居室に掲示され情報共有をおこない、計画に沿ったケアの目標や実践について話し合っている。毎月、ご利用者状況報告書に利用者写真を添えて郵送し文書で報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアに関する意見・要望等、自由に表現し、実践できる雰囲気作りに努めています。	管理者は、職員との人間関係を円滑におこなうため職場環境だけでなく、職員の家庭の事情や職員からの相談にも柔軟に応じて働きやすい職場環境に配慮している。職員間の関係性も良好で定着率がよい。定年制がなく、本人の希望や要望を聞き取り、無理のない勤務体系、条件を話し合い適切な運営状況が図れるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を受け入れ、運営・ケアに支障が無いように対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個人個人が、自分にあった利用者の支援ができるように育成しています。また、資格取得や研修への参加も支援しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍で交流が困難ではありますが、オンライン等参加での交流等に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時より、本人が安心して話すことができるような空間・環境を整えて、良い関係を築くことができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時より、御家族に安心して、相談事も話すことができるように空間・環境を整えて、よい関係を築くことができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時、じっくりと双方の話を聴きながら「ニーズの優先」を判断して、本人・御家族と共に、検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「同じ空間で過ごす家族」の一員としての意識を持ちながら、支援することに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の背景も大切にし、御家族と本人の絆を繋ぐ支援も努めています。コロナ禍の為、特に留意しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、困難であり、知人等、面会することができない現状があります。	感染の状況を考慮し、外出は家族に依頼しているが、自宅訪問やドライブなども実施している。電話の取り次ぎやLINEで動画を確認してもらったり、行きつけの美容院に行かれる方、また、訪問美容を利用される方と本人や家族の希望を踏まえ臨機応変に対応している。食卓の席も利用者同士の関係性を考慮しむやみに変更することがないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの中で、それぞれ「馴染み」の関係を作っており、お互いに声をかけたり、気づかいができるような関係を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・死去で退院（終了）後も状況に応じての相談や御家族へのフォローを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	症状の進行・高齢化等、変化がある為、本人の言葉や行動を見ながら、対応・検討を行っている	本人の思いや希望を日々の生活の中から言動や表情などで様子を汲み取り、支援経過や業務日記などに記入し職員が情報を共有している。カンファレンスなどで話し合い本人の思いや意向を踏まえたケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活・御家族からの情報等、また、本人からの情報を収集して、本人の「生活歴」把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日・その時、本人が「何をしたいのか」を日々の関りの中で把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の状態・心身の状況等「本人らしく」生活できるように、本人・職員・御家族と話し合い、現状の「計画書」を作成、3ヶ月ごとにモニタリングを行っています。	介護計画書は、居室に掲示されており、家族には郵送にて計画書を送り電話で概要を説明したり、面談をおこない同意を得ている。計画書は、利用者や家族が理解しやすいよう記載を工夫している。担当者会議には、担当の主治医も参加し計画の方向性や目標達成に向けて話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録へ記入を行っています。また、申し送りやケアで気づいたことを共有しながら実践するように心がけています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生した「ニーズ」に対して必要な支援を行えるように努めています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、現在、行うことができていないのが現状です。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携・関係は築いています。また、協力医療機関以外の医療機関との連携にも努めています。	月1回、訪問診療にて診察を受けているが、利用者の中には外来受診される方がいるため、書面にて情報提供をしている。訪問看護は、必要に応じて計画し連携を図っており薬剤師とは日常的に相互に協力関係がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の看護職員、また訪問看護ステーションの職員との連携を取っています。職場内の看護職員との連携もあり、適切な医療面でのフォローを行うことができます。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時の医療機関関係者との連携・関係作りに努めています。入院時だけではなく、外来・通院時の連携も図っています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・御家族が望まれた場合、協力医療機関・訪問看護等、関係者の協力を頂きながら、対応を検討して「看取り」への支援も取り組んでいます。</p>	<p>重度化した場合は、延命措置に関する意思確認書を取り交わし、利用者や家族の意向に沿い、納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。看取りは、利用者への声掛けを細やかにおこないつつ、家族、職員とともに皆でおこなっているが、職員は事後に振り返りをおこない次に向けて取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は救命救急講習を受けています。また、利用者においては急変時の意向確認を御家族より頂いて対応の際、指標にしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>コロナ禍の為、全体の訓練を行うことができていませんが、施設内において、防災への研修等を行い、意識を持つことができるように努めています。</p>	<p>消防署に連絡の上、年2回自主防災訓練を実施し毎月消防点検をおこなっている。専用の水タンクが設置されており、米やレトルト食品、防災グッズ（ヘルメット、担架、発電機など）を備えている。利用者は、職員と一緒に作成した防災頭巾があり、共有スペースに備えている。2階階段からの避難シュミレーションをおこない不測の事態に供え準備を怠らないよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の価値観を尊重し、自尊心を傷つける言葉使いをしないよう、徹底を図ることに努めています	プライバシー保護や倫理に関する研修は、内部研修にて年1回実施している。契約時に、「個人情報利用同意書」にて説明し同意を得ており、書類の取り扱いなどにも十分に留意している。利用者への声かけは失礼のないように配慮し尊厳を持って自尊心を傷つけないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、何を伝えたいのか読み取り、気持ちを伝えることができるように言葉かけを行いながら、促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活できるよう、日課は決めておらず、安心して自分らしく、自分のペースで過ごせるように支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	以前は理容店の訪問がありましたが、コロナ禍の為、現在中止しています。要望があれば、美容室への送迎等支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるように、好みを聞いたり、食材の下ごしらえを手伝ってもらったり、食器選びや彩にも工夫しています。	毎日、食材を十分に備えているため調理者も当日まで決めず、また献立も決まっていない。担当者は食材を確認しながら要望を聞いて調理し、各ユニットごと献立は異なる。感染予防をおこない、職員も一緒に食卓を囲み和やかな雰囲気です。能力による手伝いがあり、誕生会や敬老会などの行事食、手作りおやつを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好み（好き嫌い）摂取量に配慮しています。食事の携帯にも工夫しています。また、状況により栄養補助食品も利用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは困難ですが、状況に応じて声かけや介助で、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を利用して、排泄パターン・習慣を把握して、その人にあった支援に努めています。	日中は、なるべくトイレ誘導し、夜間のみポータブルトイレを活用される方、排泄の自立支援を行い、布下着へ改善された方もいる。食事や水分補給、適度な運動を取り入れ排便コントロールに力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態・水分補給・摂取量を把握しながら、個人に合わせた運動（テレビ体操等）を促しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日・時間帯は決めておらず、一人ひとりの希望を聞いて、入浴の支援を行っています。	入浴は、本人の希望や必要性に応じて自由に入浴ができるよう支援している。冬場は、ヒートショックに留意し保温に努め快適な入浴ができるよう入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間は決めておらず、一人ひとり、その人のペースに合わせて、ゆっくり休むことができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は職員が管理しており、服用に関しては、個人に合わせた支援を行っています。また、症状変化の確認も努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる力を活かして、職員の手伝いを行ったり、気分転換できるように、職員との時間を楽しく過ごせるように努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、現在、困難な状況です。	外出は、利用者の希望や思いを聞き取り、家族と連携して自宅訪問やドライブなどの外出を勧めている。コスモス畑へ少人数で見物に出かけたり、春、秋の花見見物も恒例になっており、家族の対応が厳しい時は、職員が支援するなどして本人の希望に寄り添うケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理においては、事務所に管理しており、希望・要望に応じて、使えるように支援しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や知人、大切な人からの電話等いつでも会話ができるように支援しています。また、携帯電話の使用においても支援しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じられるように、季節の花を飾ったり、プランターで野菜を作ったり、壁面にカレンダーを掲示する等、工夫をしています。</p>	<p>2階建てのホームのため、エレベーターと広々とした内階段があり2階には避難用の担架などが備えてある。対面キッチン、壁面には季節を感じさせる装飾が施され季節の生花が飾られている。1階にはウッドデッキ、2階には広いベランダが設置され利用者が外気浴などを楽しんでいる。菜園がありビワの木、八朔が植樹されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>馴染みの利用者同士で、おしゃべりができるように、また、一人ひとりのペースで過ごせるように工夫をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具等の配置、生活の同線に支障が無いように、本人の意思を確認しながら、工夫しています。また、愛着のある品物等も持参できるようにしています。</p>	<p>居室の備え付けの電動ベッドについては、利用者の身体状況を把握し、順次3モーターに変更中である。ソファや藤の椅子、タンスなど使い慣れたものを持ち込み居心地よく過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内が、安心して移動できるように、また、場所が分かるようにプレート等で、目的地に行くことができるように工夫しています。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない